

令和7年度

精神障害者スポーツ大会開催事業 報告書

令和8年3月

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

目 次

はじめに（公社）日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会 高畑 隆	2
1. 第24回全国障害者スポーツ大会：団体：バレーボール（精神）	
ブロック大会予選会	4
1）北海道・東北ブロック大会予選会、	
2）関東ブロック大会予選会	
3）北信越・東海ブロック大会予選会	
4）近畿ブロック大会予選会、全国障害者スポーツ大会リハーサル大会	
5）中部・四国ブロック大会予選会	
6）九州ブロック大会	
2. 第24回全国障害者スポーツ大会	
1）個人競技：卓球（精神）	22
2）団体競技：バレーボール（精神）	27
3. 資料	
1）第24回全国障害者スポーツ大会 団体：バレーボール（精神）ブロック大会結果一覧	31
2）公益社団法人日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会名簿	32

はじめに

我が国の障害者福祉は大正期の軍人支援を踏まえながら、戦後 GHQ の下で機能障害を踏まえた生活障害を支援する障害者福祉制度、身体障害者福祉法が制定（1949年）され、身体障害者の手帳制度が創設されました。当初、知的障害や精神疾患も制度の検討に上がったのですが、判定基準が明確な身体障害が制度化されました。その後、1960年に知的障害者福祉法が制定され、1973年療育手帳制度で知的障害者の生活支援制度が作られました（通知）。これらの手帳制度は東アジア諸国にも影響を与えています。また、障害者は障害者の文字で東アジアでも通じます。わが国では障害者が当用漢字化で害になった経過があり、その後、害の意味や ICF の英訳の検討などを踏まえて、現在の障害者福祉領域では「障がい者」が使われています。また、施設は、社会福祉の障害者福祉施設です。

さて、精神障害は、精神保健福祉法第5条で精神障害者が定義され（1950年：知的障害を含む）、1995年同法第45条で精神障害者保健福祉手帳制度、障害者福祉の精神障害者が位置付けられています（知的障害を除く）。精神障害はストレス、精神的不調、精神疾患などで広義に用いられることもあります。障害者福祉の精神障害者は、精神障害者保健福祉手帳の所持者で狭義の概念です（生活障害）。国際的には精神障害は疾患として位置づけられています。

障害者スポーツは1964年東京オリンピック後に国際身体障害者スポーツ大会（東京パラリンピック）が開催され、1965年に全国身体障害者スポーツ大会が開始されました。1992年には全国知的障害者スポーツ大会（ゆうあいピック）が開催されています。身体障害・知的障害のスポーツではスポーツ競技団体、全国大会、そして国際大会にもつながります。1998年長野パラリンピックでは、報道によって障害者スポーツの社会的認知度が高まりました。一方、知的障害者では判定問題で、パラリンピックでの一時的に参加が制限され、判定はスポーツ競技の公平性の基本です。

全国障害者スポーツ（以下、全スポ）は、「障がい者の社会参加を推進するスポーツ祭典」として、2001年宮城県大会で全国身体障害者スポーツ大会と全国知的障害者スポーツ大会が統合されています。全スポは、住民票の居住地で手帳による参加です。全スポは障害者の社会参加のスポーツ祭典であると同時に、競技スポーツへの入り口でもあり、スポーツ競技団体の全国大会や国際大会へとつながります。

精神障害は2000年頃から保健所デイケア、共同作業所、グループホームなどでの地域活動が活発化していました。当時、まだ手帳取得者が少なく、障害者スポーツの認知度も低く、精神障害のスポーツ競技団体も存在しない状況でした。連盟は、スポーツ（精神）を2000年以前から全国調査、障害者福祉や精神保健福祉関係者への働きかけ、障害者スポーツ（精神）研修会の開催、全スポへの参加推進を実施してきました。宮城県大会では、主催県の関連行事として精神障害者バレーボール大会を推進し、その後の全スポ開催県では主催県のオープン競技（単年度）にバレーボール（精神）種目が継続的に開催されるよう、全スポ開催県に継続的に働きかけました。さらに、全スポ正式競技に向けては、全スポの総定員枠（身体障害・知的障害）が決まっている中に、いかにバレーボール（精神）と卓球（精神）の参加枠を確保するか、継続した働きかけを行ってきました。そして、団体競技バレーボール（精神）では、正式種目としての種目と選手枠を確保しました。また、個人競技の卓球（精神）導入段階では、精神障害者の手帳取得数がかなり多くなっていたので、本来の障害者である精神障害者保健福祉手帳での全スポ参加が推進されましたが段階的推進となりました。一方、全スポ団体競技バレーボール（精神）の参加では、様々な課題が生じてきていました。全スポの我流解釈で過剰な勝利至上主義、住

民票要件の無視、手帳所持者が参加できない状況、全スポの趣旨との乖離が深刻化していました。現在、精神障害者保健福祉手帳所持者は140万に達しています。しかし、勝つために本来の障害者（手帳所持者）が全スポに参加できない、声なき声も見受けられます。障害者雇用では障害者のカウントは、あくまで障害者、手帳所持者がカウント数の対象です。そして、全スポ選手団の人数は、各都道府県の手帳数に基づいて案分されます。精神障害は身体障害や知的障害の選手数に比べ、非常に全スポ参加人数が少ない状況です。また身体障害や知的障害のように手帳の等級別・年齢別での区分もない状況があります。

近年、各都道府県は人口減少、地方財政の逼迫等、人物金の課題、国スポとの全スポの一体的な運営など、全スポ全体の見直しが求められています。精神障害のスポーツでは競技団体と全国大会が無いなど、身体障害や知的障害に比べて障害者スポーツで精神障害が非常に脆弱で、その強化と発展が求められています。連盟は、スポーツ（精神）で全スポ以外の競技団体の推進に向けた支援や国際化支援を行っています。例えばフットサル（精神）での国際会議開催、国際大会などを支援しています。また、ホームページやXでのスポーツ精神の情報発信を行っています。全スポは令和10年度長野県大会から精神障害は、本来の障害者である手帳所持者の参加となります。手帳が未取得の方は、手帳の取得が望まれます。また、高い競技性を求める方には、クラブ形式での競技団体の設立、全国大会の開催、国際大会への挑戦、一般スポーツへの参加、生涯スポーツなど、多様なスポーツへの参加推進が求められます。そして、いつでも、誰もが、どこでもスポーツを楽しむ環境づくりが求められます。今後、選手や関係者の協力を得ながら、連盟は精神障害のスポーツ活動をよりよく発展していけるよう、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

2026年3月31日

（公社）日本精神保健福祉連盟 常務理事

精神障害者スポーツ推進委員会委員長 高畑隆

1. 第24回全国障害者スポーツ大会：団体バレーボール（精神）：6ブロック大会予選会

1) 全国障害者スポーツ大会：団体：バレーボール（精神）北海道・東北ブロック大会予選会

報告年月日： 令和7年6月17日

報告者所属・氏名：青森公共職業安定所 専門援助部門 舘山 久子

1. 大会概要

1) 大会正式名称：第24回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技

(精神障がいの部) 北海道・東北ブロック予選会

2) 大会開催日時：令和7年6月14日(土) 8:30~16:30

3) 大会開催場所：新青森県総合運動公園 マエダアリーナ

〒039-3505

青森県青森市宮田字高瀬22-2

4) 主 催：第24回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神障がいの部）

北海道・東北ブロック予選実行委員会

5) 後 援：青森県、青森市

6) 協 力：青森市バレーボール協会

青森市ピアサポートグループ「ぴあっと」

青森県立青森商業高等学校女子バレーボール部

7) 参加都道府県：4県（秋田県、岩手県、宮城県、青森県） 1政令指定都市（仙台市）

8) 参加者合計：130名（選手及び監督等63名、観客数約37名、審判及び大会関係者約30名）

2. 結果

優勝：青森県 準優勝：秋田県 ※3位決定戦は実施していない

3. 競技会状況・試合の進捗状況

今回の大会は参加チームが5チーム。ここ数年参加チーム数に大きな変化はみられない。

北海道・東北ブロックは長きにわたり秋田県と青森県での代表争いが繰り広げられてきた。昨年からは青森県が選抜チームとなり来年度開催の全スポに向けて強化を図っている状況。

会場のコート2面を使用して行う予定であったが、審判の都合上1面のみの試合進行となり、予定より時間がかかってしまった。コート自体は2面準備ができていたので交流戦を行うには支障がなかったことは幸いであった。

1回戦は宮城県と仙台市。地元同士の対戦となった。初戦で緊張していたせいか、どちらのチームもサーブでの得点が多く、なかなか攻撃まで行かない状況での試合運び。中盤までは1点を争っていたが終盤仙台市が宮城県を突き放し25-17で1セット先取。続く2セットめもサーブの応酬。攻撃パターンが上手くはまった仙台市が25-15で2セットめも奪い、準決勝に駒を進めた。

準決勝第1試合は秋田県と岩手県が激突。秋田県は昨年、一昨年と準優勝している。岩手県は監督が選手も兼務している急遽選抜した少数精鋭のチーム。1セットめ開始早々から秋田がサーブで得点を重ねリードを奪うが、岩手も食い下がり、ゲーム中盤では同点に追いつく展開。終盤岩手のサーブミスから流れが秋田に傾き、3点リードとなる。リードを守り切った秋田が25-22で1セットを先取。2セットめは終始1点を争うゲーム展開。終盤の岩手のローテーションミスで秋田が勝負を決めたかと思われたが、ローテーションミスで変わったサーブ順が功を奏した形となり岩手が22-25で2セットめをもぎ取り、勝負は3セットめにもちこされた。勝負の3セットめも序盤は接戦だった

が、選手層の厚さで上回った秋田が中盤に岩手を突き放し25－15で勝利した。

準決勝第2試合は仙台市対青森県。今大会青森県は初戦となる。サーブでポイントを重ね、仙台市を圧倒。1セットめは25－8，2セットめは25－14のストレートで仙台を下した。

交流戦は岩手県対宮城県が対戦。和やかな雰囲気です3セットまで行っていた。

決勝は秋田県対青森県。昨年、一昨年と同じ対戦カードとなった。1セットめはサーブで相手を崩し、エースが決めるという青森県の得点パターンがうまくはまり、16－25で青森県が1セットを先取。2セットめは相手も譲らず1点を争う展開。中盤青森県のサービスエースが連続してきまり、リードを奪ってからは経験豊富な選手たちが要所所で得点を重ね17－25で2セットめも青森県がとり、優勝を手にした。

4. 全体の感想など

東日本大震災以降、参加チームが減少している現状。参加選手も青森県を筆頭に年齢が上がっている。また、大会自体が全国大会に比して活気がない印象があった。後進選手の育成とバレーボールをはじめとした障害者スポーツの普及・啓発の必要性を感じた。



【北海道・東北ブロック 写真】

2) 全国障害者スポーツ大会：団体：バレーボール（精神）関東ブロック予選会

報告年月日： 令和7年4月27日(日)

報告者所属・氏名： 一般社団法人 精神障害者地域生活支援とうきょう会議 瀬川 聖美

1. 大会概要

1) 大会正式名称：第24回全国障害者スポーツ大会「わた SHIGA 輝く障スポ

バレーボール競技(精神障害部門) 関東ブロック予選会

2) 大会開催日時：令和7年4月27日(日) 9:50~17:30

3) 大会開催場所：YohaS アリーナ～本能に。感動を。～(千葉公園総合体育館)

千葉県千葉市中央区弁天 4-1-2

4) 主 催：公益財団法人 日本パラスポーツ協会

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

千葉県 千葉市

主 管：千葉県バレーボール協会

協 力：特定非営利活動法人 千葉県精神保健福祉協議会

千葉県ママさんバレーボール連盟

一般社団法人 日本精神科看護協会千葉県支部

千葉障がい者スポーツ指導者協議会

5) 参加都道府県数：7 都道府県 3 政令指定都市 10 チーム

6) 参加チーム名：栃木県 埼玉県 千葉県 神奈川県 山梨県、群馬県

千葉市 横浜市 相模原市 東京都

※埼玉県、東京都は選抜チーム。神奈川県、相模原市はクラブチーム。

他は単体の事業所や医療デイケアクラブチームのようであった。

7) 参加者合計：234 名(選手及び監督等 134 名、観客数約 70 名、審判及び大会関係者約 30 名)

2. 競技会状況・試合の進捗状況

長らく関東ブロックは横浜市、埼玉県、東京都の3強時代が続いているが、近年は神奈川県代表(元横浜市の舞岡病院デイケアチームからクラブチームになり、神奈川県で活動)、相模原市もクラブチームとなり力を付けてきている。

試合はほぼ2-0で決着。決勝戦は昨年の優勝・横浜市と数年ぶりに決勝に進出した埼玉県。

1セット目は横浜市が取るが、2セット目、3セット目は埼玉県が取り、2-1で埼玉県が7年ぶりに優勝した。(茨城大会では優勝し、関東ブロック代表になったが、大会が中止になってしまった)

今回は時間の短縮の為か、開会式・閉会式が簡素化されていた。特に閉会式では入賞したチームは表彰式があるだろうとユニフォームのまま待っていたが、表彰すら簡略化され(キャプテンに表彰状を渡すのみ)行われずに気の毒であった。頑張った選手たちをたたえる場は必要だと思われる。

今回は交流戦で辞退チームが出たが、ママさんバレーボールチームが代わりに出場してくださり、棄権扱いにならずに試合が行われた。選手にすると敗戦しても交流戦ができることで楽しめたり、次への継続の力になったりもするので、このような主催者の配慮は有難かった。

怪我人等であるが、選手の一人がパニックを起こし静養室を利用。大会終了後、背の高い選手がトイレ内の柱のようところに頭をぶつけて流血し、救急搬送された。頭は切ったが大事には至ら

なかった。

3. 大会の結果

- ① 優勝 埼玉県(県選抜チーム)
- ② 準優勝 横浜市(チームさいとう・さいとうクリニックデイケア)
- ③ 第3位 東京都(都選抜チーム)

4. 全体の感想など

東京都チームの帯同であったため、東京都以外の試合はほとんど見ることはできなかった。

応援についてはまだチーム名応援もあり、都道府県代表であるという自覚がチームにはあるのだろうが、応援団にも浸透して欲しい。

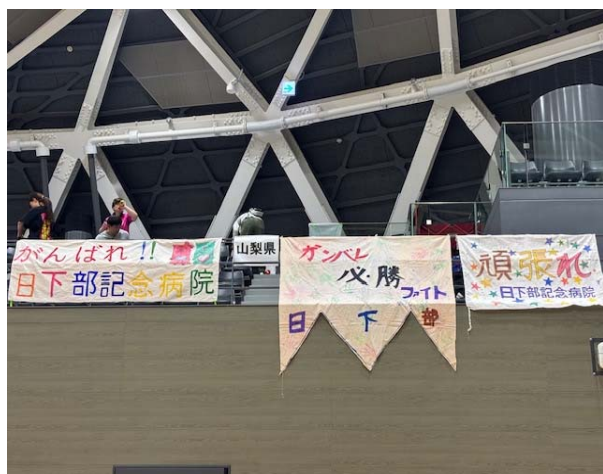
関東ブロック大会は出場チームが比較的多い方であると思うが、もっとチーム数が増えると良い。

今回関東ブロックは都心部が多く、交通経路も充実しているので、住民票以外の都道府県、政令指定都市から出場している選手が多いのだが、今回大会を運営して下さった千葉県障がい者スポーツ協会は日本精神保健福祉連盟の示した「選手の資格について」に沿った大会を運営してくれていた。

特に千葉市チームは千葉市民以外の方が多くおり(千葉県民)、レギュラー選手4名が出場できなかった。

そのため急遽集められた選手もあり、「ほぼ初めての人たちと出場するので怪我には気を付けたい」との声も聞かれた。千葉県チームも同じで数名の千葉市民がおり、出場できなかった選手がいたとのことであった。監督から千葉県障がい者スポーツ協会へ「住民票のないところから出場している選手が多いチームがある」と抗議したとのことであったが、「千葉県、千葉市がまずはきちんとルールに従って大会を開催しないといけない」とはっきりと方針を示したとのことであった。「住民票がないところから出場している選手が多いチーム」は主催者も踏み込めなかったのか出場していた。

昨年度全国のチームが集まる大会を主催したのだが、他のブロックにも住民票のないところから出場している選手がいた。また地方都市在住選手が「次はどの県から出場しようかな」と発言したのを聞いたこともある。選手はやはり強いチームに移籍して自分の力を試したいという傾向の選手も多くいると思われ、この問題を連盟としてもしっかりと取り組んでいく必要があると思う。



【関東ブロック 写真】

3) 全国障害者スポーツ大会：団体：バレーボール（精神）北信越・東海ブロック予選会

報告年月日：2025 年 6 月 2 日

報告者：日本精神保健福祉連盟スポーツ推進委員（星城大学） 坂井一也

大会概要

- 1 目 的：第 24 回全国障害者スポーツ大会に出場する北信越・東海ブロック代表チームの選考を目的とする。
- 2 主 催：（公財）日本パラスポーツ協会、（公社）日本精神保健福祉連盟精神障害者スポーツ推進委員会、名古屋市
- 3 主 管：（社福）名古屋市総合リハビリテーション事業団
- 4 協 力：愛知県バレーボール協会、愛知県ソフトバレーボール連盟、愛知県ママさんバレーボール連盟、名古屋市障がい者スポーツ指導者協議会
- 5 協 賛：（株）モルテン
- 6 期 日：令和 7 年 5 月 31 日（土）・6 月 1 日（日）
- 7 会 場：名古屋市守山スポーツセンター 第 1 競技場
〒463-0801 名古屋市守山区竜泉寺二丁目 112 番地 TEL:052-792-7066
- 8 参加者数：関係者及び審判 35 名 選手及び監督等 109 名 観客数約 56 名 合計約 200 名
- 9 参加チーム：福井県、名古屋市、静岡市、岐阜県、三重県、長野県、石川県、愛知県
- 10 競技概要

○1 回戦で、昨年の全国大会優勝の福井県とブロック予選 2 位の三重県が対戦。

第 1 セットは、中盤まで接戦だったが、実力が勝る福井県が突き放して第 1 セットを取った。第 2 セットは、福井県が危なげなく連取した。一方のブロックの名古屋市と石川県の対戦は、石川県がセットポイント取ったが、粘る名古屋市がジュースの末、逆転勝利を収めた。勢いに乗った名古屋市が第 2 セットも取った。

岐阜県と長野県もセットカウント 2 対 0 で準決勝に進出した。

○準決勝

福井県対岐阜県、強烈なジャンプサーブなどで圧倒した福井県が危なげなく 2 対 0 で勝利した。名古屋市対長野県も名古屋市が 2 対 0 で勝利した。

○決勝戦

福井県がジャンプサーブ、バックアタックなど多彩な攻撃で、名古屋市を寄せ付けず、セットカウント 2 対 0 で福井県が 3 年連続優勝を飾った。

○その他

監督会議終了後、開会式時に静岡市が私服であることが判明。静岡市に確認するとユニホームはシャツのみしか用意していないとのことで、審判団・名古屋市・坂井で協議して、本来は試合に出場できないが今回に限り特別に認めることになる。長いジャージが多く、ジーパンも 1 名いた。スタッフの服装も統一されていなかった。大会本部としては、啞然としたが、今後は、静岡市、パラスポーツ協会等と連携してユニフォームの準備をするように指導を行った。（病院のチーム）

監督会議において、組み合わせ抽選について、コロナ前はシードを行っていたが、昨年からはシードがなくなった。また、公平に抽選が行われているか疑問という意見があった。様々な意見があり、

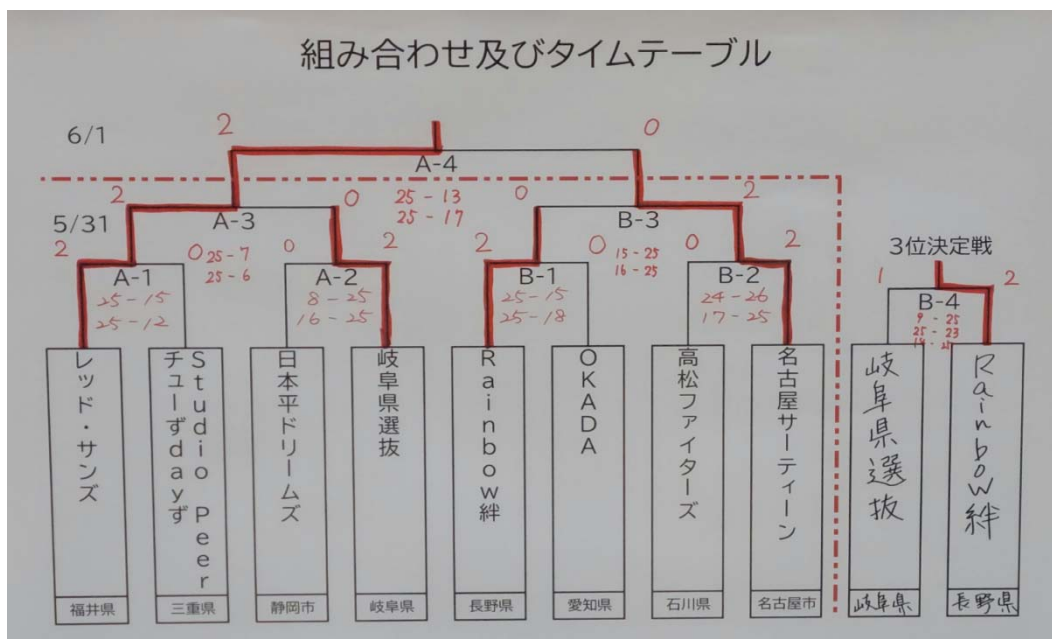
組み合わせについては決まらなかった。日本精神保健福祉連盟精神障害者スポーツ推進委員会でレギュレーションを決めていただくと揉め事にならないので検討してほしいと依頼された。開催都市の判断（申し送りが不明確なため）で、組み合わせ方法が違ったり、交流戦があったり、なかったり、北信越東海ブロックは連携があまりよくない印象を受けた。

各チームの表記が、チーム名が優先されていたので、都道府県名にしてくださいと伝え、申し送ってくださいと伝えた。（来年度は、静岡県の予定）

補助金については、名古屋市以外は補助金無しでは難しいかもしれない。

11 試合結果

1. 福井県、2. 名古屋市、3. 長野県、4. 岐阜県





【北信越・東海ブロック 写真】

4) 全国障害者スポーツ大会：団体：バレーボール（精神）リハーサル大会兼近畿ブロック予選会

報告年月日：令和7年6月

報告者所属・氏名：（公社）日本精神保健福祉連盟 精神障害者スポーツ推進委員会

委員 田所 淳子

1. 大会概要

- 1) 大会正式名称：第24回全国障害者スポーツ大会リハーサル大会兼令和7年度第24回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神）近畿ブロック予選会
- 2) 大会開催日時：令和7年5月24日（土）
- 3) 大会開催場所：草津市立総合体育館（滋賀県草津市下笠161）
- 4) 主催者：滋賀県、草津市
- 5) 主管：滋賀県バレーボール協会
- 6) コートオフィシャル：滋賀県立草津東高等学校、滋賀県立玉川高等学校、学校法人聖パウロ学園光泉カトリック高等学校、学校法人綾羽育英会綾羽高等学校
- 7) 大会運営事務団体・担当者：滋賀県国スポ・障スポ大会局 県運営競技係 長谷川 務 氏
- 8) 参加都道府県：大阪府、兵庫県、和歌山県、京都市、神戸市、滋賀県（開催地）
欠席は京都府、奈良県、大阪市、堺市
- 9) 参加者合計：
 - 選手団：84名
 - 観客数：約60名
 - 本部・運営：滋賀県庁12名、草津市役所13名
 - 競技役員：約45名
 - 高校生競技補助員：64名
 - ボランティア：約10名

2. 競技会状況・試合の進捗状況

1) 5/23 関係者との打ち合わせ

- ・会場の設営確認

- ・エントリーについて

選手変更期限までに変更を申し出たチームが県庁にメールを送ったが、県庁は「届いていない」とのこと。チーム側にメール送信画面も残っていたことから、協議の結果、変更を認めることとした。

- ・ユニフォーム質問への対応について

実施要項にも記載しているにも関わらず、ユニフォームの不揃いのチームがあり、予選会直前で「認めてほしい」と要望がある。

→5/24 監督会議で確認する

2) 5/24 監督会議

- ・ユニフォーム、ソックス等が揃っていないチームが多い。
→協議の結果、不揃いについては、今回大会に限り認めることとなる。
- ・6人制バレーボール競技規則が今年、改正されている。今大会も新ルールを適用する。

事務局より助言

- ・実施要項に記載している内容については、チームスタッフが事前に十分理解し、準備をすること。
県大会とは違い、厳格な規約に基づいての運用をしており、レクレーションイベントではなく、正式なスポーツ競技の場である。ユニフォーム等も含め、注意と意識を持って準備にあたること。

3) 試合の状況

●A—1 1回戦 兵庫県 対 和歌山県

和歌山県は基本的プレーがまだ不十分な面もあり、そつなくこなす兵庫県が終始リードし、ワンサイドゲームで2セット先取し、すぐに終了した。

●B—1 準決勝 神戸市 対 京都市

神戸市は基本的なプレーがまだ不十分な面もあり、京都市が終始リードし、ワンサイドゲームで2セット先取し、すぐに終了した。

●A—2 準決勝 大阪府 対 兵庫県

1回戦で調子に乗った兵庫県が、序盤はリードし軽快に試合を運んだが、大阪府は常連チーム、そこを許さず、途中から反撃、すぐに追いつき、その後は大阪府が終始リード、テンポのよい攻撃と固い守りで1セットを先取する。2セット目は、兵庫県は最初からエンジン全開、強打アタックやブロックを決め、リードする。大阪府も反撃するが、連携ミスもあり、このまま兵庫県が逃げ切るかと思いきや、途中から大阪府も目覚めたように底力を見せ、強打連発。大阪府が17点で同点に追いつき、その後は兵庫県に1点も与えず逃げ切り、大阪府が勝利する。

●A—3 決勝 大阪府 対 京都市

1セット目、大阪府のスタートが良いが、京都市も必死で応戦する。長いラリーや手堅いレシーブも連発、見どころのある試合になる。しかし、京都市にミスが見られ、終始、大阪府がリードして進め、25-17で大阪府が先取する。2セット目も大阪府がリードして進めるが、京都市も基礎力があるチームであり、8-8で同点に追いつく。その後は、シーソーゲーム。お互い、強打アタックを連発するも、レシーブし、コート外までボールを追いかける。長いラリーも続き、観客からも歓声上がる場面が多く、横綱相撲の試合であった。最後は23-23になり、両チーム、すごい気迫で臨んだが、大阪府が2点連続で得点して2セット目も勝利。常勝チームの貫禄を見せつけた。

●B—2 交流戦 和歌山県 対 滋賀県

地元滋賀県チームは強化中であるが、和歌山県相手にワンサイドゲームで勝利する。

●B—3 交流戦 兵庫県 対 滋賀県

神戸市チームに体調不良者が出たため、交流戦を辞退。急遽、兵庫県が代理となる。兵庫県は経験のた

めか二軍選手を出場させ、滋賀県が2セットとも勝利した。

3. 大会の結果

優勝 大阪府 2位 京都市 3位 兵庫県、神戸市（3位決定戦は行わず）

4. 次年度について

①次年度の近畿ブロック大会の開催予定

②開催県の決定方法の確認

各府県市による協議の場で時期開催地を決定している。

5. 大会主催者・関係者との意見交換の状況や感想

- ・エントリー変更に関して、県庁とチームの意見の食い違いや齟齬が見られた。
- ・各チームの認識や意識の低さ「ユニフォームや服装に関する意識の低さや、準備不足」「競技そのものに関する専門知識不足」「大会の意義や理念についての知識がない」ことが露呈された。

《滋賀県庁の意見》

- ・今大会で従事した職員が経験を生かして10月の全国大会でも従事し、円滑な業務になるよう留意したい。
- ・バレーボール協会との連絡調整では特にトラブルや困った点はなかった。

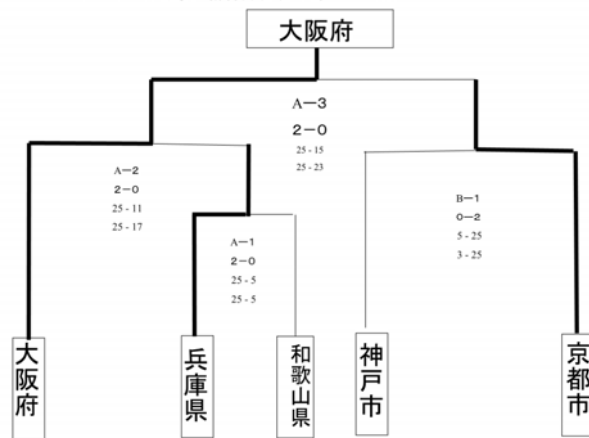
《滋賀県バレーボール協会の意見》

- ・滋賀県庁との業務連絡も順調に行えた。
- ・今回の大会運営での反省点を踏まえて、10月の全国大会では万全の運営を目指していきたい。
- ・表彰式閉会式までに帰ってしまうチームが多く、結局残ったのは、表彰対象の優勝、準優勝のチームと地元滋賀県のみ。全チームに残ってもらいたい。
- ・競技規則に「少なくとも女性1名が参加すること」とあるが、「男女混合」の表記でよいのではないか。
- ・ユニフォームの徹底について、あまりに認識の低いチームが多くて困った。事前にユニフォーム等についての確認をする部署はどこになるのか？
→まずはチームからの書類を受け付ける各府県市が、チームに確認をするべきだと思われる。

6. その他、全体の感想

- ・会場の体育館は、コートが2面設営可能。ただし、別棟の体育館がないため、10月の全国大会では、1コートを試合用、1コートをアップ用コートとする予定。
- ・救護体制は看護協会派遣看護師1名、県保健師1名。大きなけが人は発生しなかった。

第24回全国障害者スポーツ大会 近畿ブロック予選会
バレーボール競技 精神障害者の部 R7.5.24



【近畿ブロック 写真】

5) 全国障害者スポーツ大会：団体バレーボール（精神）中国・四国ブロック予選会

報告年月日：令和7年6月

報告者所属・氏名：（公社）日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会

委員 田所 淳子

1. 大会概要

- 1) 大会正式名称：令和7年度第24回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神障害）
中国・四国ブロック予選会
- 2) 大会開催日時：令和7年6月21日（土）～22日（日）
- 3) 大会開催場所：維新百年記念公園 維新大晃アリーナ（山口県山口市維新公園4-1-1）
- 4) 主催者：公益財団法人 日本パラスポーツ協会、山口県、公益社団法人 山口県障害者スポーツ協会
- 5) 共催：公益社団法人 日本精神保健福祉連盟
- 6) 主管：山口県バレーボール協会
- 7) 協力：山口県パラスポーツ指導者協議会、山口県理学療法士会
- 8) コートオフィシャル：山口市バレーボール協会、山口県立大学、周南公立大学
- 9) 大会運営事務団体・担当者：山口県障害者スポーツ協会 横田 氏
山口県健康福祉部障害者支援課 杉山 氏
- 10) 参加都道府県：鳥取県、島根県、岡山県、山口県、香川県、徳島県、愛媛県、高知県、広島市
欠席は広島県、岡山市
- 11) 参加人数
選手：73名
選手団役員：35名
観客数：2日間延べ約40名
本部・運営：各日 約10名
競技役員：各日17名
競技補助員：各日10名

2. 競技会状況・試合の進捗状況

1) 代表者会議

- ・6人制バレーボール競技規則が今年、改正されている。今大会では改正ルールを適用する。

2) 試合の状況

●A—1 1回戦 徳島県 対 島根県

序盤からシーソーゲームとなるが、島根県が先取する。2セット目もシーソーゲームとなるが、再び島根県が抜け出し、勝利した。

●B—1 2回戦 愛媛県 対 広島市

序盤からシーソーゲームだったが、広島市が勝利し、2セット目、広島市は危なげなく勝利した。

●A—2 2回戦 高知県 対 山口県

地元応援団を有した山口県は序盤こそエンジンがかからなかったが、途中から調子が上がり、1セット目を先取する。2セット目は高知県がリードしていたが、サーブやレシーブのミスが続き、山口県が中盤、逆転、そのまま逃げ切り、勝利した。

●B—2 2回戦 香川県 対 鳥取県

1セット目は終始、香川県が大量リードで進める。2セット目は逆に鳥取県がリードして進めたが、終盤、同点になり、デュースから香川県が逆転、勝利した。香川県は三光病院を母体とするチーム。

●A—3 2回戦 岡山県 対 島根県

昨年度優勝の岡山県は、例年見られる大きな動きや威力、強打が少なく、精鋭さにも少し欠けているように見えたが、僅差でリードを続けて1セット目を先取。2セット目、島根県は単純なミスが多く、自滅パターンとなり、岡山県がワンサイドで勝利した。

●A—1 準決勝 岡山県 対 山口県

岡山県が僅差のリードをして進めたが、山口県もアタック、フェイントを駆使し、17点で同点に追いつく。その後は目が離せないシーソーゲームになり、今大会の試合初めてのデュース。最後は岡山県の連携が乱れて山口県が1セット目を先取する。2セット目は序盤、シーソーゲームであったが、中盤は岡山県が僅差のリードで進めた。しかし岡山県のミスを誘った山口県が18点で同点に追いついた後、逆転に成功。必死で戦う岡山県を振り切り、決勝に駒を進めた。

●B—1 準決勝 香川県 対 広島市

強化の成果が見られる香川県は、優勝経験のある広島市に挑んだ。1セット目は広島市が先取。2セット目は香川県も粘りを見せ、中盤までシーソーゲームであったが、その後は積極的に攻めた広島市が大差をつけて勝利し、決勝に駒を進めた。

●B—3 3位決定戦 岡山県 対 香川県

序盤から岡山県がリードするが、香川県も連携プレーを見せ、17点で同点に追いつき、その後、逆転する。その後も香川県は調子を上げて軽快に打ち進め1セット目を先取する。2セット目は序盤から岡山県が終始リードする。香川県は時折強打で猛追するが、最後は岡山県が逃げ切って、今大会初の3セット試合になる。3セット目も岡山県が終始リードで進めた。香川県は近年の中では急成長したように見えたが、最後は岡山県が勝利し、3位となった。

●A—3 決勝戦 山口県 対 広島市

序盤から山口県は軽快なテンポでリードするが、15点で広島市が追い付き、同点に。その後は山口県が若干優位に進めたが広島市も追いつき、デュースに。何度もデュースを繰り返して最後は広島市が逃げ切った。2セット目は、最初から目が離せないシーソーゲームが続いた。終盤、抜け出したのは広島市。山口県も猛追するが、ややレシーブ力が優っていた広島市が2点差で逃げ切り、全国大会への切符を手にした。

●A—2 交流戦 徳島県 対 高知県
セットカウント2－0で高知県が勝利した。

●B—2 交流戦 愛媛県 対 鳥取県
セットカウント2－0で愛媛県が勝利した。

3. 大会の結果

優勝 広島市 2位 山口県 3位 岡山県

4. 次年度について

①次年度の中国・四国ブロック大会の開催予定

広島県（担当は広島県パラスポーツ協会 遠藤氏、広島県地域政策局スポーツ推進課 大西氏）

②開催県の決定方法

各県市による協議の場で次年度開催地を決定している。

5. 大会主催者・関係者の状況

《主催者の意見》

- ・平素から県庁との連携は取れており、問題はなかった。
- ・山口県バレーボール協会から大学等に競技補助員の協力を依頼し、スムーズに運んだ。

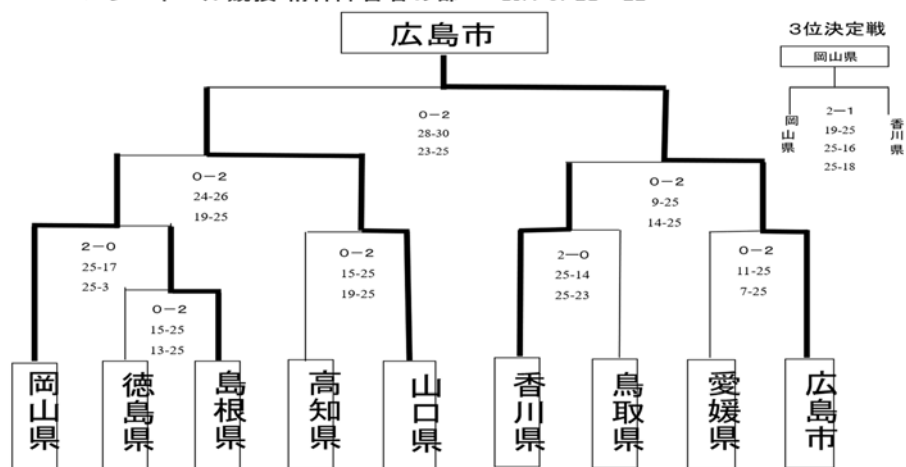
《山口県バレーボール協会の意見》

- ・ユニフォーム等に関する要望や不揃いがある、と聞いていたが、大きな混乱や要望はなかった。規定の範囲内で、できるだけ選手が参加できるように配慮する方針であった。

6. その他、全体の感想

- ・県障害者スポーツ協会と県庁は平素から十分な連携があるように思われた。
- ・会場の体育館はコートが3面設営可能であり、うち2コートを試合用とした。他に練習用としてサブアリーナ1コートあり。空調も完備され、環境的には申し分ない。
- ・救護部門（看護師対応）は大きなけが人はなかった。身体的不調者1名発生。
- ・代表者会議ではユニフォームについての質問や要望はなく、各チームの認識が十分なされていた。
- ・次年度開催県である広島県から3機関が視察来場。
- ・表彰式では1～3位に表彰状を授与。山口県障害者スポーツ協会長名。併せて、優勝チームには全国大会出場権獲得証明書も授与。日本パラスポーツ協会長名と日本精神保健福祉連盟精神障がい者スポーツ推進委員会委員長名の連名。

第24回全国障害者スポーツ大会 中国・四国ブロック予選会(山口)
バレーボール競技 精神障害者の部 R7. 6. 21~22



【中四国ブロック写真】

6) 全国障害者スポーツ大会団体：バレーボール（精神）九州ブロック大会予選会

報告年月日:2025 年 4 月 27 日

報告者:日本精神保健福祉連盟スポーツ推進委員(星城大学) 坂井一也

大会概要

- 1 目 的 : 本大会は、令和 7 年 10 月に滋賀県で開催される第 24 回全国障害者スポーツ大会(わた SHIGA 輝く障スポ)バレーボール競技(精神の部)に出場する九州地区の代表を決定する予選会として開催する。
- 2 主 催 : 北九州市障害者スポーツ協会
- 3 共 催 : 北九州市、(公財)日本パラスポーツ協会、(公社)日本精神保健福祉連盟九州地区精神障害者スポーツ推進連絡協議会
- 4 主 管 : 第 24 回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技(精神の部)九州ブロック地区予選会実行委員会
- 5 後 援 : (公財)北九州市スポーツ協会、北九州市立浅野社会復帰センター、(NPO) 北九州精神障害者福祉会連合会、北九州市障害者スポーツセンター(アレアス)
- 6 協 力 : 北九州市バレーボール協会、日本パラスポーツ指導者協議会九州ブロック、福岡パラスポーツ指導者協議会、北九州市障害者スポーツボランティアの会(SKET)
- 7 期 日 : 令和 7 年 4 月 19 日(土)
- 8 会 場 : 北九州市立小倉北体育館 〒802-0061 北九州市小倉北区三郎丸 3-4-1
- 9 参加者数 : 関係者及び審判 45 名 選手及び監督等 111 名 観客数約 44 名 合計約 200 名
- 10 参加チーム : 福岡県、福岡市、北九州市、佐賀県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
- 11 競技概要

○1 回戦で、昨年の全国大会準優勝の鹿児島県と 4 位の佐賀県が対戦。(事実上の決勝戦)

白熱した熱戦、お互いに繋ぐバレーで 3 セットまでもつれ込み、最後は、佐賀県が鹿児島を振り切った。

○準決勝

2 試合とも 3 セットにもつれ込む熱戦、

佐賀県対福岡市、第 1 セット佐賀県が前半リードするがミスが続き福岡市が逆転し、そのまま福岡市が第 1 セットを取る。第 2 セットは、接戦であったが終始佐賀県がリードし第 2 セットを取る。第 3 セットは、第 2 セットを取った佐賀県が勢いを継続し、第 3 セットを取り、2 対 1 で決勝へ進む。

福岡県対北九州市、第 1 セットは福岡県が取るが第 2 セットはシーソーゲームになり最後はジュースの末北九州が取り返す。第 3 セットは、福岡県が粘る北九州市を振り切り福岡県がとり、2 対 1 で福岡県が決勝進出。

○決勝戦

両チームともこれまで 6 セットの接戦の末勝ち上がったため、体力勝負となる。

先に福岡県のエースが足をつり、佐賀県が勢いにのって、2 セットを連取し、実に 13 年ぶりの優勝を果たした。

☆次次年度の宮崎県

強化を始めているが、選手が集まらず強化に繋がっていない。開催地は、宮崎県小林市 市民体育館…建て替えなので新しい体育館になる。

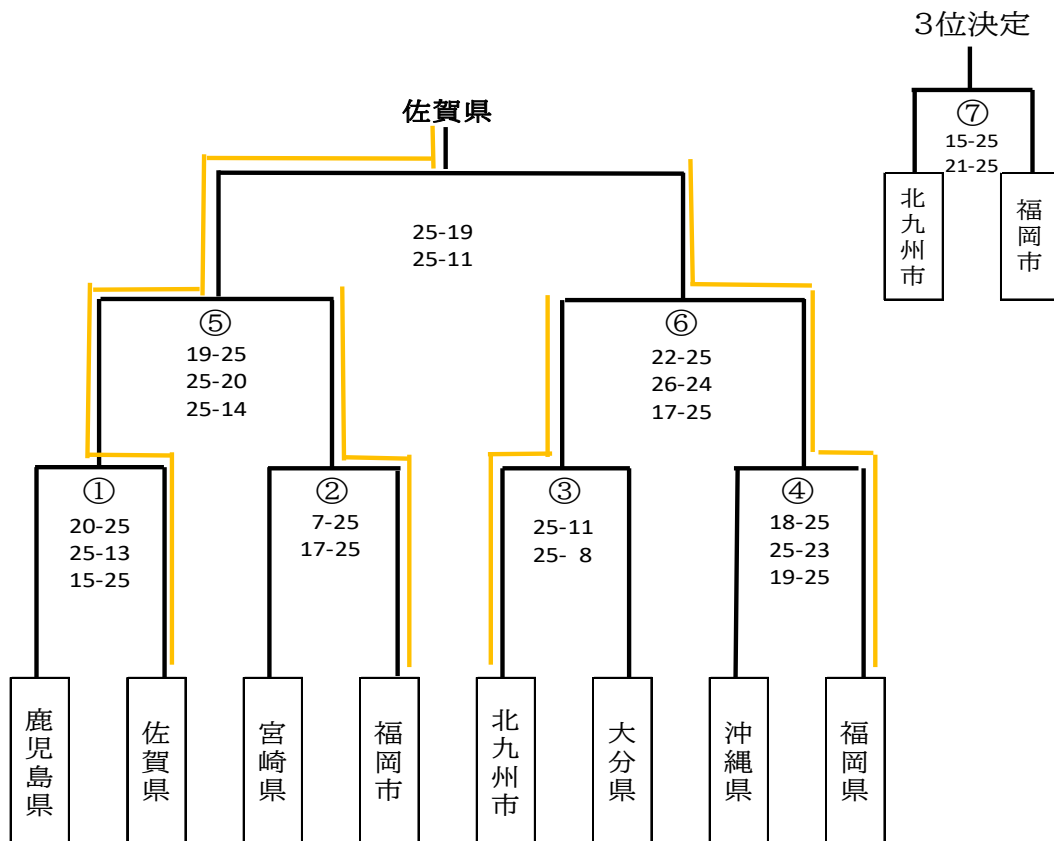
○その他

九州ブロック予選の開催地の予定を確認した。来年度は、福岡市、再来年度は宮崎県。

ローテーション…新しいルールを採用した。

12 試合結果

1, 佐賀県、2. 福岡県、3. 福岡市、4北九州市





【九州ブロック写真】

2. 「わた SHIGA 輝く障スポ」第24回全国障害者スポーツ大会2025

1) 個人競技：卓球（精神）

報告年月日：令和7年10月

報告者：日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会 委員長 高畑 隆

1. 大会概要

- 1) 大会名称：わた SHIGA 輝く障スポ第24回全国障害者スポーツ大会2025
- 2) 大会会期：2025年10月25日（土）～27日（月）
- 3) 開催地：滋賀県
- 4) 主催：（公財）日本パラスポーツ協会、文部科学省、滋賀県、開催地会場市町村他

2. 個人競技：卓球（一般卓球とSTT）

- 1) 競技日程：公式練習・監督会議 令和7年10月24日（金）公式練習9時45分～16時30分
監督会議 12時45分～13時30分
競技日程 令和7年10月25日（土）受付開始8時15分：競技9時30分～16時30分
26日（日）受付開始8時15分
9時30分～16時30分：表彰は試合終了後ブロックで随時開始
閉会式 16時45分～17時
- 2) 会場：野洲市総合体育館（滋賀県野洲市富波甲1339）
- 3) 競技主管団体：滋賀県卓球協会 他
- 4) 競技役員：競技会会長、競技会副会長、競技委員長、競技副委員長、審判長、副審判長、審判主任、審判員（34名）、審判員 STT（18名）、総務委員長、総務副委員長、総務委員（4名）、進行委員長、神鋼副委員長、進行委員（7名）、放送委員長、放送委員3名、記録委員長、記録副委員長、記録委員（6名）、報道委員長、報道委員（2名）、掲示委員長、掲示委員（5名）、選手招集委員長、選手招集副委員長、選手招集委員（3名）、式典委員長、式典副委員長、式典委員（9名）、受付委員長、受付委員（5名）、会場委員長、会場副委員長、会場委員（5名）、
- 5) 競技補助員：滋賀県立東大津高等学校、滋賀県立石山高等学校、滋賀県立河瀬高等学校、滋賀県立八幡高等学校、滋賀県立八幡商業高等学校、滋賀県立草津東高等学校、滋賀県立守山北高等学校、滋賀県立水口東高等学校、滋賀県立甲西高等学校
- 6) ボランティア：運営ボランティア、手話・要約筆記ボランティア
- 7) 実施本部員：滋賀県職員、野洲市職員
- 8) 大会運営事務団体・担当者：滋賀県国スポ・障スポ大会局 県運営競技係 長谷川 務 氏
- 9) 障害区分とゼッケンの色
白（肢体不自由）、薄緑（視覚障害）、黄（聴覚障害）、桃（知的障害）、水色（内部障害）、薄茶色（精神障害）
- 10) 参加都道府県市：
北海道・札幌市、青森県、岩手県、宮城県・仙台市、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、

群馬県、埼玉県・さいたま市、千葉県・千葉市、東京都、神奈川県・川崎市・横浜市・相模原市、山梨県、長野県、新潟県・新潟市、富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県・静岡市・浜松市、愛知県・名古屋市、三重県、滋賀県、京都府・京都市、奈良県、大阪府・大阪市・堺市、和歌山県、兵庫県・神戸市、鳥取県、島根県、岡山県・岡山市、広島県・広島市、山口県、香川県、愛媛県、高知県福岡県・福岡市・北九州市、長崎県、佐賀県、大分県、宮崎県、熊本県・熊谷市、鹿児島県、沖縄県

*精神障害は各都道府県・政令市から、男女各1名が参加できます。

11) 参加者人数：選手団：約450名+各選手団役員

観客数（2日間延べ）約250名程度

12) コンディショニングルーム：有資格者の滋賀県理学療法士会、滋賀県作業療法士会、滋賀県柔道整復師会、滋賀県鍼灸マッサージ師会・滋賀県視覚障害者福祉協会の協力で選手の筋肉疲労の回復を図るサービスです。予約制で無料1人15分です。

13) 情報支援：会場内には情報保障サポーター（手話・筆記）で情報提供。参加申し込み時に手話を希望した場合は、選手と審判等の必要な通訳を主催者の用意する情報サポーターが対応します。

2. 競技方法

1) 一般卓球（身体障害、知的障害、精神障害）とサウンドテーブルテニス（STT）です。5ゲームマッチ（1ゲーム11点）

2) 試合：各ブロックのリーグ戦で行う。

3) 各ブロックは、3名を主に4名以内で、原則同一障害区分、性別及び年齢区分の選手で構成する。

4) 出場選手が少ない障害区分及び年齢区分では、別の障害区分及び年齢区分の選手と併せて同一ブロック構成とする。順位の決定、記録の認定及び表彰は、それぞれの障害区分及び年齢区分で行う。

5) 競技用具等：使用球は（公財）日本卓球協会公認プラスチック球。競技領域は（公財）日本卓球協会制定の日本卓球ルールの競技領域に可能な限り合わせる長さ11m、幅6m。

競技用服装：（公財）日本卓球協会が公認したマークの付いたものでなければならない。身体の障害で着用が困難な者は、事前に「服装緩和措置申請書」を審判長に提出し、許可を得ること。

サービス規定緩和：身体の障害等によりサービスの規定の緩和が明らかな場合は、事前に「サービス緩和措置申請書」を審判長に提出し、許可を得ること。

ラケットはJTTA公認の物を使用し、それ以外のは「ラケット使用許可申請書」を提出し審判長許可を得てください。選手が試合に出場することができない場合は、「選手棄権届」を提出ください。やむおえない事情でアドバイザー以外に介助者が必要な場合は、「介護者同項申請書」を提出し「介助許可証（ビブス）」の交付を受けてください。

主催者が交付した番号布（ゼッケン）を競技用服装の背部につけること、

*障害区分とゼッケンの色は、白（肢体不自由）、薄緑（視覚障害）、黄（聴覚障害）、桃（知的障害）、水色（内部障害（ぼうこうまたは直腸機能障害）、薄茶（精神障害）です。

6) 卓球台等：1列に8台で2列、計16台が配置される。

*この大会の全競技・全試合が障スポ・チャンネル（わたSHIGA輝く障スポホームページ）で、映像で配信されている。競技記録も記録速報がネット上で確認できます。

卓球では、各卓球台1台にカメラ1台で全試合が安定して配信されている。精神障害の試合は、主に12台～16台の台で実施される。ブロック番号は、男子501～519、女子601～613で、各ブロッ

クの選手数は、主に3名（男子では2ブロックで4名）である。

*全国障害者スポーツ大会は、「社会参加への障害者のスポーツの祭典」です。競技団体のスポーツ競技大会ではないです。従って、全国障害者スポーツ大会卓球競技では、各ブロック内での表彰です。各ブロックは主に3名で、表彰は優勝、2位、3位が表彰されます。

3. 大会の状況

1) 10月23日（木）

滋賀県「わた SHIGA 輝く障スポ第24回全国障害者スポーツ大会202」卓球担当者と体育館内を日パラ技術員卓球

担当の身体・知的・精神が会場の下見の実施、課題点などの確認の実施を行った。

日本パラスポーツ協会の技術員は、日本パラスポーツ競技団体協議会に加盟している、競技団体から参加している、身体障害は日本肢体不自由者卓球協会（パラ卓球協会）、知的障害は日本知的障がい者卓球連盟から派遣されています。本来は卓球競技団体から技術員の参加ですが、精神障害では競技団体が無いので、日本精神保健福祉連盟・スポーツ推進委員会が代理で参加しています。精神障害も卓球競技団体ができて、各地域・全国・海外での競技大会ができることが望まれています。

会場の確認では、大会本部、コンディショニングルーム（地元の理学療法士団体等）、選手招集所・監督者会議場、試合場への選手動線、卓球台設置状況（台番号）、卓球台スペース・周囲の設置物（椅子の数、主審の審判長方向に点数の向き）、審判員コーナー・審判長他・視察員席・放送席、表彰コーナー、車イス・STT待機所（室内に段差があり注意が必要）及び・補装具修理所、特設トイレ（車いす、盲導犬トイレ）、STT会場（A/B/C）、大人オムツ交換室確認した。STT試合室前の廊下は狭いので、エレベーター横に人員を配置し、トイレの案内音声は無音にして、STT試合室前で雑音が無いように指導する。エレベーターは館内1基である（主に車イス用）。

救護所は（医師と看護師）傷病者が出た場合、応急処置及び医療機関への搬送要請等を行います、AEDは、館内1階フロア、救護所、トレーニングルームの3か所に設置。

2階の選手団席（人数で指定）・観客席・手話通訳席、カームダウンスペース、授乳室・搾乳室（2名配置）、映像配信、表彰者撮影コーナー、試合開始時は暗幕で、入り口は光が入りにくいようにガラスに曇りシート・衝立で直接光が入らないようにしている。体育館内は試合に影響するフラッシュ撮影は禁止です。

2階外には大きいテント（休養テント内にベッド4台）

体育館外周りは、総合案内所・受付テント、STT観客席テント3張り（A/B/C）、昼食事弁当引換所休憩所、喫煙所テント、販売・観光案内・ふるまい他テント5-6張り、キッチンカースペース、野洲駅と大会送迎バス停留所、選手送迎バス駐車場を確認して動線なども確認した。

車いすの貸し出し、ドリンクサービス、おもてなし広場（ふるまい）、補聴援助システム貸出（ロジャー）当日は、競技会場にテレビ、新聞等の報道が来所し、選手氏名、写真、映像等が報道されることがあります。また、わた SHIGA 輝く国スポ・障スポホームページで競技会の写真を掲載することがあります。

*カームダウンスペースは、発達障害・知的障害・精神障害の方で、気持ちを落ち着ける必要の場合に利用する場所です。（体育館2階観覧席付近2か所）

2) 10月24日（金）

参加選手団は9時には到着して公式練習が午前2グループで開催された、監督会議12時45分から13時30分

午後公式練習が午後2グループ行われた。Aグループ9時45分～11時5分、Bグループ11時15分～12時35分、Cグループ13時40分～15時、Dグループ15時10分～16時30分
選手団によっては、横断幕を掲示し始める。横断幕には規定があり各選手団1枚で、サイズは縦1メートル、横4メートルである。しかし、横断幕の縦や横のサイズが規定を超えている物が散見した。
監督者会議は、大会2～3か月前に事務局に質問を提出して、事前に規則やルール、緩和規制等の確認実施が前提である。それを踏まえて、大会参加の各都道府県・政令市選手団の監督は、事前に監督者会議用の資料が配布されて、事前に資料確認を行っている（各種の大会及び館内案内・必要事情・注意点等、事前質問と回答）。会議では、監督会議用資料の中で重要な点について確認を行った。また、緩和規制の書類提出時間や場所などの確認を行った（書類は公式練習日の受付時に提出）。
各公式練習は、順調に進められた。2階のカームダウンスペース、2階外の休養テント内4ベッドを見回った時は、利用者はいませんでした。喫煙所には、スタッフや選手が頻繁に出入りしていました。

3) 10月25日（土）競技1日目

受付8時15分、競技は9時30分～16時30分である。選手招集時刻は、試合開始前15分とする。選手招集時刻に遅れた選手は、原則として棄権とみなす。競技場内には、主催者の許可を得た者（ADカード）以外は立ち入ることができない。選手控所、競技エリア、実施本部控所等の関係者エリアに入ることができるのは、ADカードを身に着けた者だけです。

招集時間は15分前ですが、時に遅れる選手がいた場合には、必要最低限の放送が行われた。会場には多くの選手、サポーターに加えて、一般観客席には満員の観客が観戦にいられていました。映像も1台1台が安定して配信が行われていた。精神の卓球台は、12台～16台で主に試合が行われていた。

非常に順調に時間通りに試合が進行していった。報道関係のテレビカメラ1台、カメラマンが1人来ていた。

喫煙所には、スタッフや選手が頻繁に出入りしていました。

休養場所を数回見たときは、2階のカームダウンスペースの1か所に車イス1台利用、2階外の休養テント内4ベッドを2か所利用されていた、その後4ベッドが満室であった。高齢の方や若い人等年齢は様々の方である。選手団職員から利用の時間制限はあるかと、特に制限はないと話した。障害は分からないですが知的障害、発達障害、てんかんの方などと思われる。

試合進行時間は、非常に順調に定時で進められて、1日目の競技を終了した。

4) 10月26日（日）競技2日目

受付8時15分、競技開始9時30分～16時30分表彰は、競技終了後、ブロックごとに随時行われる。

16時45分～17時閉会式（一般選手は2階、車イス・STT選手は1階で参加）

朝から雨が降る天気模様の日である。体育館の出入り口では、靴入れ用にビニール袋を配布していた。

今日は地元のパラアスリート選手で世界ランキング1位の山口美也選手の試合が2試合あります。前日の夜の地元のNHKは、山口選手がパリの国際大会に参加しないで、地元の滋賀県でのこの大会参加の報道がなされていた。今日は、テレビカメラ2台、カメラマン等も数人来ているようです。2階観覧席には、多くの観客が来られていて、車イス観客もいます。

2 日目の試合は定時に始まり、順調に試合が進められていました。山口選手の試合にはテレビカメラが数台近づいて撮影をしていました。昼頃からは、試合が進められる中で、試合が終わったブロックでは10時15分頃から表彰式の開始準備が始まり表彰式が始まりました。各ブロックの成績を確認しながら、障害種別・性別で順位が決まります。体育館内の端にある表彰式コーナーの待機所で、試合成績を踏まえて表彰順位等を確認して、表彰者が3名そろってから、表彰式が行われます。各ブロックで優勝、2位、3位の表彰が行われ、メダルが授与されます。(各ブロックは3名を主に4名以下です) 優勝者には、副賞として花束とみずかがみ(地元のお米2合)が贈られます。

喫煙所には、雨でもスタッフや選手が頻繁に出入りしていました。

2 階のカームダウンスペースの利用者は特に見られませんでした。2 階外にある休養テント内の4 ベッドは、雨が吹き込んで1 か所が使用できなくなっていました。ベッドは1-2 か所を利用されていました。

4. おわりに

卓球は誰もが参加しやすい競技の1つです。年齢を超えての参加も可能です。また、一般卓球なので、各種ルール、ボール、ラケット、服装は、各大会での基本は同じです。地元の卓球クラブに参加しての練習、地元の卓球大会への参加、また障害者スポーツでの卓球への参加、都道府県での障害者スポーツ大会への参加もあります。日常の場所である事業所の中に卓球台があれば、卓球の機会はかなり増えるでしょう。地域の大会も年齢別に様々な大会があるので、参加してみるのも良いでしょう。趣味や生きがい・やりがいになると、とても良いですね。

大会参加では、選手団に精神障害の専門家が同行する選手団と、卓球指導者などそれ以外の方が同行される選手団があると思います。卓球選手団の同行者は、選手団の全体人数に比べて、精神障害の男女各1名と非常に少ないので、精神障害の専門家でない場合があります。精神障害以外の方が同行する場合は、試合は大丈夫でも生活面でとても大変だったとの意見を聞きました。事前に日本精神保健福祉連盟のホームページにある卓球に関する卓球競技の派遣に関する調査などを参考にいただけると幸いです。また、選手団卓球では、精神障害の専門家の同行があるかどうか、調査で現状を把握することも必要かもしれません。

身体障害や知的障害は、各障害別の卓球競技団体があり、都道府県やブロック、全国大会があって国際大会につながっています。全国障害者スポーツ大会は障害者の社会参加のためのスポーツ祭典で、競技大会ではないです。精神障害も競技団体を作り、競技大会ができるのが望まれます。まず、ネット上で各地の精神障害者の方に呼び掛けて、交流の場や精神障害卓球連絡会を作る。あるいは、小さなクラブ1か所でも競技団体(精神障害卓球協会)を作って、オープンな広域大会(全国)を開催し、大きな大会になると幸いです。



2. 「わた SHIGA 輝く障スポ」第 24 回全国障害者スポーツ大会 2025

2) 団体競技：バレーボール（精神）

報告年月日：令和 7 年 10 月

報告者所属・氏名：（公社）日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会

委員 田所 淳子

1. 大会概要

1) 大会正式名称：わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ 2025 第 24 回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技（精神）

2) 大会開催日時：令和 7 年 10 月 25 日（土）～26 日（日）

3) 大会開催場所：草津市立総合体育館（滋賀県草津市下笠町 161）

4) 主催：（公財）日本パラスポーツ協会、文部科学省、滋賀県、草津市 以下省略

5) 競技主管運営団体：滋賀県バレーボール協会 以下省略

6) 競技補助員：滋賀県立草津東高等学校、滋賀県立玉川高等学校、学校法人聖パウロ学園光泉カトリック高等学校、学校法人綾羽育英会綾羽高等学校

7) 大会運営事務団体・担当者：滋賀県国スポ・障スポ大会局 県運営競技係 長谷川 務 氏

8) 参加都道府県市：青森県、埼玉県、福井県、大阪府、広島市、佐賀県、滋賀県

9) 参加者人数：選手団：97 名

観客数（2 日間のべ）：約 200 名

本部・運営：滋賀県庁 12 名、草津市役所 7 名

競技役員：44 名

高校生競技補助員：10/25 55 名、10/26 60 名

ボランティア：約 20 名

2. 競技会状況・試合の進捗状況

1) 10/23 関係者との打ち合わせ（滋賀県庁、滋賀県バレーボール協会、技術指導員）

- ・会場の設営確認

- ・10/24-26 の運営確認

- ・団体競技全てを滋賀県庁が you tube 配信をする。決勝戦については実況中継アナウンスに加え解説者もつける予定であったが、適切な解説者が見つからず、バレーボール競技では知的障害のみ解説者がつくことになった。

2) 10/24 監督会議

- ・ユニフォームの下にアンダーシャツ、アンダーパンツを着用希望の選手がいる（滋賀県）。

- 監督会議出席全チーム承認により認められる。

- ・来年大会から会場に託児所の設置を要望したい（広島市）。

- 青森県に引継ぐ。

3) 試合の状況

●A—1 1 回戦 青森県 対 滋賀県

地元滋賀県と常連出場青森県の対戦。青森県はサービスエースやそつない連携でワンサイドゲームを進める。滋賀県もエースアタッカーにボールが渡ればアタックを決めるがサーブレシーブの弱さもあり、青森県がセット先取る。2セット目は滋賀県もきわどいサーブで走り出し、序盤はシーソーゲームが

続いたが、中盤、青森県が調子を上げ、リードを進める。その後も青森県のドライブサーブで連続得点し、勝利した。地元の大応援団を擁した滋賀県は悲願の1勝をあげられなかった。

●A—2 1回戦 福井県 対 佐賀県

昨年の優勝チーム福井県と、強化して昨年の準優勝チーム鹿児島県を破っての出場、佐賀県の試合。序盤は福井県がリードしていたが、佐賀県もよく拾い、中盤、同点に追いつく。その後はシーソーゲームとなり、若い選手たちがお互い力強い攻防を繰り返し、目が離せない展開が続く。デュースを繰り返し、最後は佐賀県のミスにより福井県がセット先取する。2セット目は、1セット目を終えて良い意味でふっ切れたように福井県がのびのびと攻めた。波に乗れない佐賀県は連携ミスもあり、2セット目は福井県が簡単に決めて、2-0、準決勝へ駒を進めた。

●A—3 1回戦 広島市 対 大阪府

どちらも強烈なスパイクこそないものの小気味よく軽快に動く。序盤からシーソーゲームとなるも、中盤、広島市のミスが続く、大阪府が僅差のリードを保ちながら展開する。終盤、広島市も必死に攻めるが大阪府が逃げ切り、セット先取する。2セット目も終始大阪府のペースで進む。広島市は連携に小さなミスが見られるものの必死で追い上げるが、最後は大応援団を擁した大阪府が逃げ切り、勝利した。

●A—4 準決勝 埼玉県 対 青森県

シードされていた埼玉県と1回戦を制して勝ち上がってきた青森県との試合。序盤は埼玉県がリードするも小さなミスも見られ、青森県が11-11で同点に追いつく。しかし、その後は埼玉県がブロックを数回決めるなど軽快に進めて点差を広げる。青森県も猛追するが、最後は埼玉県が逃げ切り1セット目を先取する。2セット目も埼玉県が終始リードして進む。両者とも連携ミスは少ないがスパイクの精度がやや勝る埼玉県が点差を広げた。青森県も追い上げるが最後はサーブで失敗、埼玉県が逃げ切り、2-0で勝利、決勝戦に駒を進めた。

●A—5 準決勝 福井県 対 大阪府

序盤から福井県がリードして進む。サーブ、スパイクをそつなく決め、途中からジャンピングサーブスエースで大量得点し、1セット目の後半はほとんど攻撃場面なく福井県が先取する。2セット目は序盤、シーソーゲームだったが福井県にミスが目立ち始め、大阪府がリードして進む。窮地の福井県は続けてタイムを2回取るが、大阪府の上昇気流が続く。福井県も追い上げるが大阪府の勢いが止まらず、2セット目は大阪府が取る。本大会初めての3セット目、序盤から大阪府がリードして進め、2年間負けなしの福井県に焦りが漂う。2セット目からの流れを味方につけた大阪府、猛追する福井県、固唾をのむような展開が続く、何とか福井県が追い付き23-23同点に。その後、福井県が逃げ切り、今までになく厳しい試合を制した。大変見ごたえのある試合であった。

●A—6 交流戦① 滋賀県 対 佐賀県

会場大声援の中の交流戦。佐賀県はサーブを軸に攻め、守り切れない滋賀県、という流れで進み、佐賀県がセット先取する。2セット目、佐賀県が急に崩れ、滋賀県がリードして進むが11点で同点になり、その後はシーソーゲームが続いたが、中盤、佐賀県がリードを進めた。しかし滋賀県も必死にプレーし終盤に追いつき、23-24になるもデュース前に佐賀県が逃げ切った。しかし両者ともまだまだ攻守、連携、サーブなど今後の課題があると思われる。

●A—7 交流戦② 佐賀県 対 広島市

佐賀県は交流戦連続試合。序盤から広島市がリードして進むが途中からスパイクの精度を欠き、佐賀県が追い付いて同点になる。その後は僅差で佐賀県がリードする展開に。最後はラリーが続くも佐賀県がセット先取する。2セット目は長らくシーソーゲームが続いたが終盤、佐賀県が抜け出したものの広島

市が追いつきデュースに。広島市の追い上げ虚しく佐賀県が勝利する。

●A—8 3位決定戦 青森県 対 大阪府

呼び込みによりスターティングメンバーがコート入り。メダルをかけた試合、どちらも無駄がなく形が出来上がっているチーム。1セット目はシーソーゲームから中盤、青森県が抜き出てリードしセット先取する。2セット目は大阪府のリードで進むが中盤、青森県が追い付き、逆転。その後も長いラリーが続くが、青森県は大阪府を寄せ付けず勝利する。両者ともよく鍛えられているチーム。

●A—9 決勝戦 埼玉県 対 福井県

呼び込みによりスターティングメンバーがコート入り。福井県は昨日の不調の影も見せず、序盤からパワー炸裂。ほとんど穴がない守りに加え強烈スパイクを連打し、セット先取。2セット目も福井県は強打スパイク連続。両者よく拾い、王者同士の攻防が続くが、福井県がリードしながら進む。結果、大差があいて福井県が勝利し、全国大会3連覇となった。見どころ満載の横綱試合であった。

3. 大会の結果

優勝 福井県 2位 埼玉県 3位 青森県

4. 次年度について

・青森県五所川原市民体育館

5. 大会主催者・関係者との意見交換の状況や感想

《滋賀県庁の意見》

- ・事前の準備や関係機関との調整も順調に進んだ。滋賀県バレーボール協会の組織や体制、運営がしっかりしており、安心して任せられた。
- ・救護体制は医師1名、看護協会派遣看護師1名、県保健師1名。小さな負傷はあったものの大きなけが人は発生しなかった。
- ・託児所は、国民スポーツ大会では会場によっては設置されている箇所もあった。なお、託児所要望については青森県に引き継ぐ。
- ・カームダウンスペース（静養室）の利用選手は少なかった。

《滋賀県バレーボール協会の意見》

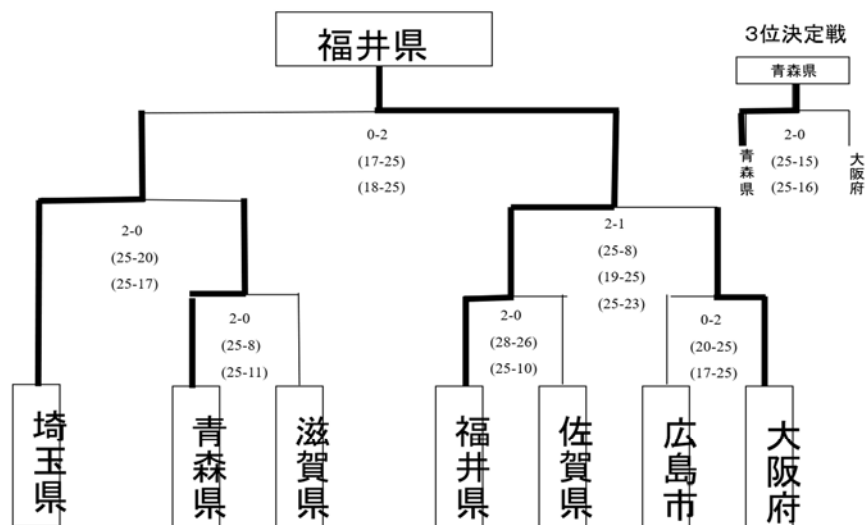
- ・長年の準備を経て大会運営にあたった。大きなトラブルもなく順調に運営し終了できた。
- ・要領に「ユニフォームを揃えること」「ソックスの色と長さを揃えること」とあるも、パンツが不揃いなチームがあった。またソックスについては多くのチームがバラバラの不揃いであった。チーム側の順守意識が低い。

6. その他、全体の感想

- ・会場の体育館は、コートが2面設営可能。ただし、別棟の体育館や近隣に学校等がないため、本大会2日間は1コートを本試合用、1コートをアップ用コートとした。
- ・滋賀県庁が各競技をリアルタイムでyou tube 配信した。決勝戦については実況中継アナウンスを配備したが、解説者まで配備できない競技種目も多かったのは残念であった。
- ・青森県、宮崎県バレーボール協会が視察来所していたが、障害者スポーツ大会や障害者スポーツ事業の仕組みを全く知らないことから、しかるべき部署が事前に伝達していくことが必要。



第24回全国障害者スポーツ大会バレーボール競技(精神障害)
R7.10.25-26 (交流戦は記載せず)



1) 第24回 全国障害者スポーツ大会団体競技バレーボール精神障害者

ブロック地区予選会開催結果

ブロック	開催地	開催日・会場	優勝	準優勝	3位
北海道・東北	青森県	令和7年6月14日(土) 新青森県総合運動公園	青森県	秋田県	
関東	千葉県	令和7年4月27日(日) 千葉公園総合体育館 (YohaS アリーナ ～本能に、感動を。)	埼玉県	横浜市	東京都
北信越・東海	名古屋市	令和7年5月31日(土)～6月1日(日) 名古屋市 守山スポーツセンター	福井県	名古屋市	長野県
近畿	滋賀県	令和7年5月24日(土) 草津市立 総合体育館	大阪府	京都市	
中国・四国	山口県	令和7年6月21日(土)～22日(日) 維新公園 大晃アリーナ	広島市	山口県	岡山県
九州	北九州市	令和7年4月19日(土) 北九州市立小倉北体育館	佐賀県	福岡県	福岡市

2) 日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会

2026. 3. 10 現在

委員	氏 名	所属
委員長・連盟（連盟常務理事）	高畑 隆	公益社団法人 日本精神保健福祉連盟 常務理事
委員・連盟（連盟正会員役員）	草地 仁史	一般社団法人 日本精神科看護協会 業務 執行理事 政策企画局局長
委員・連盟（連盟正会員事業担当）	吉田 太郎	公益社団法人 日本精神保健福祉士協 会・災害対策委員
委員・競技団体（JSFA 日本ソーシャルフ ットボール協会参与）	井上 誠士郎	北 25 条メンタルクリニック あいさに
委員・競技団体（JSFA 日本ソーシャルフ ットボール協会相談役）	岡村 武彦	医療法人 大阪精神医学研究所 新阿武山 病院 理事長
委員・①競技団体（JSFA 日本ソーシャル フットボール協会理事長） ②関係団体（日本スポーツ精神医 学会理事）	佐々 毅	医療法人社団宙麦会 ひだクリニックお 台場 院長
委員事務局長・競技団体（JSFA 日本ソー シャルフットボール協会総務）	瀬川 聖美	社会福祉法人 本郷の森 理事長
委員・競技団体（JSBA 日本ソーシャルバ スケットボール協会：会長）	鎗田 英樹	帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科 教授
委員・関係団体（作業療法士協会） （JSFA 日本ソーシャルフットボール協 会副理事長（広報））	古賀 誠	作業療法士協会・スポーツ精神委員 昭和医科大学保健医療学部 リハビリテ ーション学科 講師
委員・競技団体準備（バレーボール精神）	坂井 一也	学校法人名古屋石田学園 星城大学リハ ビリテーション学部 教授
委員・競技団体準備（バレーボール精神）	館山 久子	青森公共職業安定所 専門援助部門
委員	河本 次生	埼玉県立精神保健福祉センター
委員	田所 淳子	高知県安芸福祉保健所 健康障害課 主任

令和7年度 精神障害者スポーツ大会開催事業 報告書

発行日 令和8年3月

発行者 公益社団法人日本精神保健福祉連盟
会長 鹿島晴雄

発行所 公益社団法人日本精神保健福祉連盟
〒108-8554 東京都港区芝浦3-15-14
日精協会館内
TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309

